

【出題意図】

課題文では、「デザインとは何か」という問いに対して 4 つの視点を示し、「心地良さ」が一つの視点であるとの考えが述べられている。これらの内容を踏まえて、興味がある対象物のデザインに対して自分なりの考えを論じてもらうことを意図している。

論じるにあたって、対象物を具体的に挙げることを条件としており、対象物のデザインにどれだけ興味を持ってみているか、心地良さを自分なりに論じることができるかが鍵となる。

【採点基準・配点】

理解力、論理力、思考力、表現力を中心として総合的に評価します。

特に、令和 6 年度の問題では、以下の点を採点の際のポイントとします。

- ・ 課題文の内容を読み取り、理解できているか。
- ・ 論じるにあたって適切な対象物が挙げられているか。
- ・ 適切な論拠に基づいて自分の論を展開できているか。

(以下は一般的な項目)

- ・ 理路のとった文章になっているか。
- ・ 序論・本論・結論という構成の文章になっているか。
- ・ 文字数は要求範囲内か。(700～800 字)
- ・ 誤字脱字はないか。

課題文では、何かをデザインする際の要因や動機付けの1つとして「心地良さを求める」ことが挙げられている。また、ものを改良する際にはより使い心地の良いものにしようとする志向が働いている、デザインについて考えるには使う立場から考えた方が良いという意見が示されている。以下では、3つの例を挙げて、「まちのデザイン」における心地良さについて述べる。

まず、子供や高齢者、障がいを抱えた人々にとって、安全に安心して歩くことができるまちは使い心地が良いだろう。盛岡市のまちなかでも見られるように、電線類を地下に埋めて電柱を撤去することは、景観の向上とともに、通行の妨げも解消できるため、心地良いまちのデザインの一例である。次に、生活する人の視点で考える。毎日の生活で使う道路を速度の速い車が通行することは生活者にとって危険を伴う。そのため、あえて緩やかに蛇行する道路形状にデザインして、通過する車の速度を遅くすることができれば、生活者に安心を与えるほか、景観にも変化を与えることができ、心地良さにつながる。また、近年、岩手県でも夏の気温が高い日が続くことが増えた。街路樹はまちの景観にとって大切な要素であるが、同時に日陰をつくるという役割も担う。多くの人々が利用する歩道に適切な日陰を作り出すように街路樹を配置することは夏の歩行時の使い心地を良くすることができ、心地良さにつながるデザインと言える。

このように「まち」には幅広い年代の人々、健常者だけでなく障がいを抱えた人々、生活する人や働きに来る人などの様々な立場の人々が暮らしている。まちのデザインでは、様々な立場の人々にとって使い心地が良いと感じられることが心地良さにつながる。また、まちのデザインには、景観、安全・安心、環境などの様々な側面が関わることから、心地良さにつながるデザインでは異なる視点を考慮することも重要である。

(25字×32行)

【出題意図】

問1

- ・論理的に課題文を読むことができるか。
- ・表現が適切・正確であるか。(誤字、脱字、てにをは、なども含む)
- ・文章にまとまりがあり、分かりやすく書かれているか。

問2

- ・正確な知識・食生活や料理に関する常識を有しているか。
- ・自分の考えを論理的に説明し、明確な結論が導き出されているか。
- ・独善的でなく、客観性、柔軟性のある論理展開ができているか。
- ・表現が適切・正確であるか。(誤字、脱字、てにをは、なども含む)
- ・文章にまとまりがあり、分かりやすく書かれているか。

【採点基準】

問1

心を重ねる、気持ち、負担、プレッシャー、手伝い、一緒に作るなどの類似表現に触れながら、作者が述べている理由を説明しているか。

問2

- ・問1を踏まえているか。
- ・実体験や本文中の言葉に触れているか。
- ・自分の考えを理論的に説明し、明確な結論が導き出されているか。
- ・自分の考えを客観的に、柔軟性をもって理論展開ができているか。
- ・表現が適切・正確であるか。
- ・文章にまとまりがあり、分かりやすく書かれているか。

[illegible]

に、で、るに、促い。る手も一て食のに心つも。を背合にだ  
緒みは作人をてた作少間がめはぶ感で作私たいのに緒だ  
一のと、るいえきは多時か初で選節度を、つ伝理人一から  
、度こりべ伝考起人で。誰て庭を季態事がか手料る、か  
は態る知食手とり二間る、っ家法、や食だな、のべがくる  
にや作とがに易なに時作りな、方み葉。らはず、そ食いく  
め葉にこ人。族容としのになりに理好言たかでれ、そ食いく  
た言緒るる家が任な末時とう知調や、ったき恐と間難か  
る。一い作なは方赴応週同要よをて康にかいべをだ時は分  
ねる、て。と母る身否いを必の性じ健母なてす発りるとに  
重えがしだけ。作単、短理がそ要応のるいえに反かけこに  
を考いにらかたでがり、料い。必にちいは考りのばかりこ徐々  
心とな切かつた人母まとる伝たる欲たててとき族るに知は  
にるは大るきだ一は始るす手っす食。私れ来とっ家。べ理を  
人あでがなの人、化がすののな識のた、く出こせ、る食調等  
るで単人にそるは変し宅ち私に意人つもてくの任もえを、と  
作法簡る口がべり。ら帰持やうをる知父っし然に母考理節こ  
が方は作糸と食よい暮が日父よ期べもも作難当人ると料季る  
人いと、るこらるなの母と、つ時食と私をはを一あたやい  
る良こにねす専けれ人。理ず立りがこで理とと母でっつ質てよ  
べがる易重促も受し二た料りに回手るま料ここを手だがのっ  
食とね容をを私をものっだ足所出りあ時てるう理りき上材作と  
はこ重的心いも発か父なんも台の作でのしねら調作べ来食てこ  
私るを較に伝父反のとに込間に材の常そ慮重ももたす出、せる  
問 2 私るを較に伝父反のとに込間に材の常そ慮重ももたす出、せる  
作 心比人手 した私人の手緒食事が配をて父ま促景わ作

( 666 字、25 字  $\times$  28 行 )